

月刊反トマホーク通信

No. 15
1987.1.20
定価 100円

東京都渋谷区渋谷2-5-9 パル青山502 トマ喰い虫社 ☎03(498)6095

INTERNATIONAL DISARM THE SEAS WEEKEND 1987

MAY 29 TO 31!

北大西洋沿岸の国々で海の軍拡に反対して運動しているNAN（北大西洋ネットワーク）の人々のシンボルはパフィン（つめのどり）「大西洋には巡航ミサイルよりもパフィンを！」こんな合言葉を持つ友たちを北極の向う側に持つことをうれしく思う。

昨年6月に続いて、NANの人々は海洋の軍拡に反対する国際的な共同行動をよびかけている。

「海洋の軍備撤廃のための週末87」期間は5月29日から31日の間。共通テーマは「命のために海を生返らせよう！」

太平洋各地でも、さまざまな行動が繰広げられるだろう。私たちもそれぞれの場所で、あるいは力を合せてどこかで行動を起こすことを呼びかけたいと思う。そのための準備にとりかかろう。

ATLANTIC NETWORK



“RECLAIMING THE SEAS FOR LIFE”

トマホークの配備を許すな！全国運動

●維持会員（月間会費）

団体 1口 2000円
個人 1口 1000円

●参加会員（月間会費）

団体 1口 1000円
個人 1口 500円

●通信会員

年間2000円

—あなたも仲間—to

●年あけとともに寒さもますます厳しさを増してきました。お元氣にお過ごしでしょうか。今年こそ寒的多かれ、とそれぞれのおもいを胸に新しい年を迎えたことと思います。今年もよろしく。

のつけから私事で恐縮ですが、年末年始は家族そろって風邪でダウンしてしまいました。今号では「八六年の回顧と八七年の展望」なる大企画をと意気込んでいたのですが、風邪の先制パンチにあえなく意気消沈。核艦船入港データのまとめと「日誌」のミニミニ特集になってしまいました。

その代わりに、地域からの力溢れる二本のレポートが届いています。「ミッドウェー」の改修、再就役とその波紋に関する横須賀からのものと、地域での反軍需生産と反核運動の結合をめぐる長崎からのレポートです。なにかと忙しいこの時期に原稿をおくってくれたかたがたに感謝します。

●八七年度防衛予算はついにGNPパーセントを越えようとしています。何かと議論の的となりながらも、まがりなりにも無制限軍

拡への歯止めとしてあった「梓」を投捨てたこの国の支配者たちは私達をどこに連れていくかとしているのか。突破分〇・〇〇四パーセントという数字以上に深刻に受止めなければならぬと思います。一月一日に明らかにされた米国の「八八―八九会計年度国防報告」はこの「突破」を含めた日本の防衛費増加を「中曽根首相によって公式に引受けられた義務」であると評価しました。

その国防報告は「ソ連の脅威」を克明に述べ、戦略核の充実とSDIの推進でそれに対抗すると打出しています。一月七日から三日間ハワイで行われた日米安保事務レベル協議の焦点は「日米共同作戦における相互運用性（インターオペラビリティ）の研究の本格化」であったと伝えられています。

「中期防衛力整備計画」の中身を一瞥しても明らかのように、現在のこの国の軍拡は間違いなく米国の対ソ戦略（核戦争準備体制の中にあるのです）。

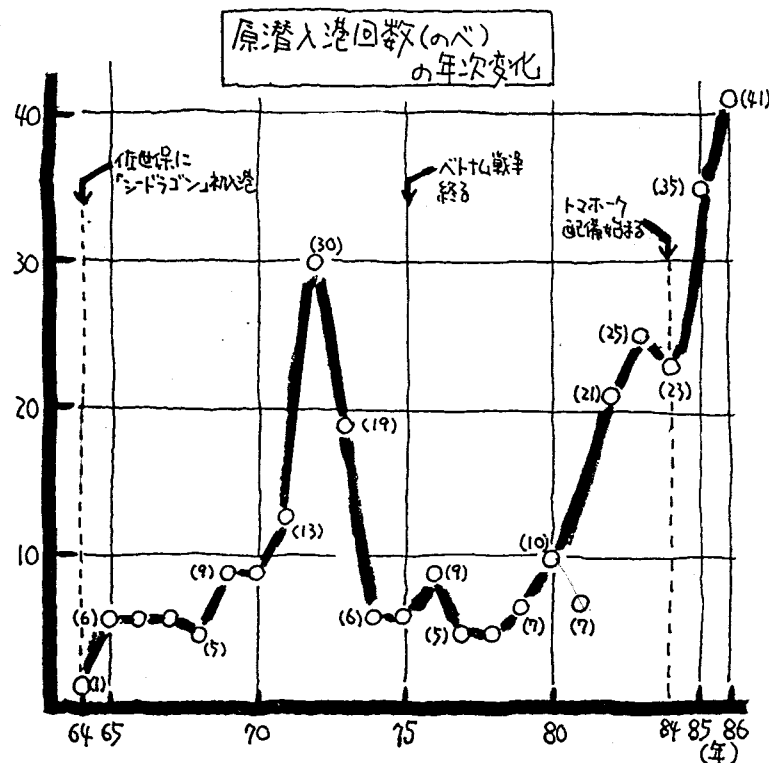
●今私たちが果たさなければならぬのは私たちじしん、いや人間全体に対する「公式の義務」なのであって、ナカソネ氏がレーガン氏に対してはたしているそれとは真向から対立するものです。

(た)

ニ オーストラリア発ニ



米の核搭載艦オルデンドーフのシドニー入港に抗議して、サーフ・ボードで近寄り、艦のへさきを掴む市民。(86年9月29日) 同艦はオーストラリア海軍の創立75周年行事に参加するため、戦艦ミズーリーなどとともにオーストラリアに寄港した。各地で人々は抗議行動を繰広げた。



86年

原潜入港ラッシュ止まらず

四一隻と史上最高、半数がトマホークのプラット・ホーム

□昨年日本には四二隻の原子力推進艦船が入港した。横須賀に三二、佐世保に七、沖縄に三隻。巡洋艦ロングビーチを除く四一隻はすべて原子力潜水艦である。原潜入港数は八五年の三五をうまわりまたまた最高記録を更新した。原潜のうちトマホーク搭載あるいは搭載疑惑のロサンゼルス級、スタージョン級が二二隻と半数以上。これらの述べ滞在日数は九五日に及んだ。ニュージャージー、ロングビーチ、メリルの三隻の水上艦を加えれば百二五日、つまり一年の三分の一以上、日本のどこかにトマホークのプラットホーム（発射台）が据付けられていた勘定になる。

□日本近海がトマホークの発射海域となっていることを明白に示す数字である。同時に、米ソ双方の対潜作戦の活発化の背景には太平洋全域が両国の核戦略にとって死活的な重要性を帯びてきているという事情がある。たとえば米国はオハイオ級戦略ミサイル原潜七隻全てを太平洋に潜ませているのである。

これら動く原子炉の存在は、核発射のボタンが押されずとも、つねに「事故」の形での核惨事と背中合せに私たちが暮らしている、という事実を冷たく示している。

□海は誰の占有物でもない。ましてや核の隠れ家にするなど誰にも許されてはいないはずだ。この道理の実現に向かって、核艦船の入港を人々の力で本当に止めて見せる、それを手掛りにどこまで潜ぎつける事が出来るのか。その課題に今年も挑戦しつづけよう。

(資料提供 非核市民宣言運動・ヨコスカ)

八十八年 核をめぐる出来事

日誌

(↓は関連記事掲載
の「反トマ通信」)

- 一月八日 米中初の海軍合同演習。
- 二月七日 フィリピン大統領選挙でマルコス体制崩壊。アキノ政権発足へ。
- 二月十一日 ペラウ(パラオ)で米との自由連合をめぐる国民投票。賛成は七十二%で憲法の定める七十五%に達せず、「協定」批准は不成立。↓No6(四・一〇)
- 三月二日 返子市議会リコール成立。三月二三日には市長リコールが不成立。市民は緑を選ぶ。
- 三月十四日 米とリビア、シドラ湾で交戦。四月一四日には米がリビアを爆撃。トマホーク搭載原潜も派遣。「海洋戦略」発動。
- 四月九日 厚木基地爆音訴訟で東京高裁判決「騒音被害は受忍限度内」と飛行差止め、賠償要求のいずれも棄却。
- 四月二十六日 ソ連チェルノブイリで原発事故。飛散した放射能は十億キュリーとも。恐れられていた事が遂に現実のものに…。
- 五月三日 韓国「仁川事件」 反米・反戦。

反核を掲げて十五万人が街頭行動。激しい弾圧。

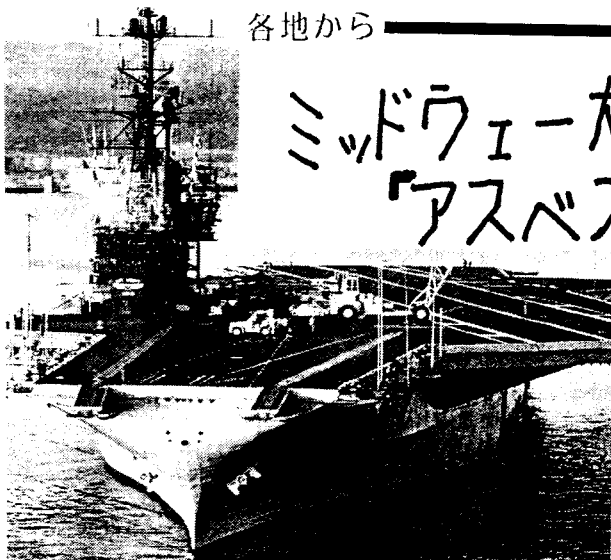
- 五月八日 リムパック(環太平洋合同演習) 86始まる。海上自衛隊の新八・八艦隊が参加。ニュージーランドは参加せず。英艦隊が参加。↓No6および7
- 六月三〇日 バヌアツ、ソ連と国交樹立。
- 七月一日 英国の核搭載可能艦船二隻、中国上海入港。「核持込み認めぬ」中国の製作を英国が「尊重」する、「中国方式」によって実現。
- 七月二日 ソロモン 米国務省政策室長、「極東第二戦線論」を発表。トマホークとF16の配備がその裏付け、と。↓No10(八・二〇)
- 七月二十八日 ソ連ゴルバチョフ書記長、ウラジオストクで演説。「太平洋重視」の新ドクトリン。
- 七月二十八日 三宅島で基地誘致派の村議二名にたいするリコール成立。
- 八月二日 米、非核政策のニュージーランドに対する安保義務放棄を表明。→No6
- 八月二十四日 戦艦ニュージージャーなどトマホーク搭載の三艦船同時入港。前後して韓国にも入港。出港後日本海で大演習。↓No8、9合併号(七・一五) No10(八・二〇) No11(九・一五)

九月九日 日本SDIへの参加を閣議決定。

- 十月二日 バヌアツ米と国交樹立へ。
- 十月二日 エイジス艦「ビンセンス」横須賀に初入港。
- 十月三日 ソ連ヤンキー級原潜、大西洋で爆発事故。↓No12(二〇・二〇)
- 十月十一日 レイキャビク米ソ首脳会談。SDIがネックで、「決裂」 海洋発射巡航ミサイルは交渉のテーブルにも上らず。No14(一・二〇)
- 十月上旬中旬 ソ連と朝鮮民主主義人民共和国初の海軍合同演習、と米軍当局発表。
- 十月十六日 ニュージーランド・ロンギ政権改訂非核法案を上程。
- 十月二十七日 史上初の日米三軍統合実動演習始まる。↓No12、14
- 十一月五日 米の核可能艦船三隻、中国・青島(チンタオ)に入港。ふたたび「中国方式」
- 十一月二十八日 米SALT2を廃棄。巡航ミサイル装備のB52配備を決定。
- 十二月二日 ペラウで四回目「自由連合」国民投票。賛成約六〇%で今回も批准不成立。↓No14
- 十二月十一日 南太平洋非核条約発効。
- 十二月二十九日 八七年度防衛予算、大蔵省原案でついにGNP一%を突破。

ミッドウェー大改修と 「アスベスト問題」

鈴木 良
(非核代替
運動・コミカ)



「二〇〇〇年まで通用する戦力として」
昨年四月～十一月にかけて横須賀基地で約七カ月半もの大改修工事を行なった空母ミッドウェーは、一月九日、約八カ月ぶりに作戦航海に出港した。

今回の改修は海軍内で「長期特定修理(Extended Selected Restricted Availability)」と呼ばれているもので、レーガン政権の「空母十五隻体制」を九十年代一杯維持するために、艦齢四十一年、当初九十年代初めに退役予定だったミッドウェーへ、艦齢延長工事(SLEP)に準じた延命対策を施し、二〇〇〇年初頭まで通用する戦力として再生させようというものである。

総工費八六五〇万ドル(約一四七億円)の新造時の建造費は九〇〇〇万ドル、下請けを含め三千名の労働者が従事したこの工事の主な箇所は、①船体中程から船底まで、長さ全長の三分の二に及ぶハル・プリスター(浮力タンク)の取り付け、②通信装置強化のための新しい機器の搭載、③FA-18A戦闘攻撃機(三十六機)の搭載とEA-6B電子偵察機(四機)の能力向上型への更新による後部飛行甲板(着艦部)の補修、航空機整備区画の改良、飛行甲板上の排気防除板の改修、④カタパルトの整備点検、飛行甲板の再塗装、⑤一部居住設備の改善、洋上補給装置の改正、⑥エンジンのクリーニング、といったところである。

攻撃力を大幅アップ

四五年新造時、基準排水量四万五千トンだったミッドウェーは、五五年～五七年、六六年～七〇年の二度にわたる近代化改修で五万一千トンに増えた。これらは飛行甲板の拡張や電子装置の新設、乗員増などによるものであり、船体そのものには手が加えられなかったため、吃水が下がり荒天時には飛行甲板に波しぶきがかかったり、下げ位置にしたエレベーターが波でたまためそうになったりした。横揺れもひどく、冬の北太平洋で「波浪と風のために横転するおそれがあるので、四十八時間にわたって針路を変更しなかつた」との議会証言もあるという。

プリスターの取り付けにより吃水が上がり、安定性も増す(幅は最大で七・二メートル増し、排水量は三千トン～三千五百トン増加)。またある程度の防衛力向上にもなる。エンジンが昔のままなので速力は一ノ三ノット低下するといわれるが「柔軟反応作戦」により北太平洋や日本海、オホーツク海など荒天の多い海域に入るようになる同艦にとっては、必要な能力なのだろう。

FA-18ホーネットの搭載は、ミッドウェー

一の核を含む攻撃力の大増アップにいたるといわれている。F A一八Aは以前のA 7E攻撃機(二十四機)にくらべ、搭載力と航続力で難があるとされているものの、戦闘・攻撃両方に“柔軟”に対処できる能力を持ち、整備性も改善されている。運動性や加速でF 4S戦闘機(二十四機)に勝るといえる。

当初、A 7E・F 4S計四十八機分をそっくり入れ替えると伝えられたのが、結局三十六機(三機飛行隊)に留まったのも、艦内スペースの関係とともに「F A一八Aならば三個飛行隊でも所定の任務を充分遂行できる」からだという(もっともA 6E攻撃機一個飛行隊十機を増設するという説もある)。

□下請け労働者をフル動員

これだけの大工事を約七カ月半でやってのけた横須賀基地は、その“能力”を改めて見せつけたわけだが、その裏には下請企業Ⅱ住重をはじめとする東京湾岸の造船大手六社、佐世保重工とその下請の存在があったことを見落としてはならない。

従事労働者約三千名のうち約半数はこれら下請の労働者であり、プリスター工事は住重が請け負い、大手五社へブロック製作の仕事

をまわした。住重は佐世保重工と受注ダンピングを競い、四十五億円で落札した。いくら円高状況とはいえ、米国の造船所や工廠に比べればはるかに安価な、しかも優秀な労働力が二カ月以上も昼夜二交代の突貫で難工事を完成させたのである。当然、労働安全衛生基準も、基地外へ出す廃棄物の処理基準も米国より緩い。実はこの面で、ミッドウエー改修は予期せぬ“ボロ”を出すことになったのである。

□世論の力で廃棄物

タレ流しをストップ

ミッドウエーには発ガン(肺ガン)物質として国際的に規制強化が叫ばれているアスベスト(石綿)が断熱・保温材として相当量使われていた。海軍でも七八年以降、艦艇への使用を中止している。

今回の工事でエンジン、居住設備、飛行甲板などに手が加わっていることから、かなりの石綿廃棄物が出るのが予想されていたが、それらのズサンな処理が、十月初め、下請業者の倒産―石綿廃棄物の路上放置という形で明るみにでた。米軍と直接契約している業者の中には、基地内の正規の処理ルートに乗せずに基地外へ石綿廃棄物を持ち出すケースが

あるというのだ。また正規の処理ルートにしても、いったん基地から出てしまえば、米軍は「一切、関知せず」、日本の法律で何の規制もないため、中間処理で細々にされて産廃処理場に捨てられ、有害な石綿粉じんをまき散らしているおそれのあることも判明した。

これらが新聞で大々的にバクロされ、市議会や国会で取り上げられ、市当局も対策委員会をつくって動いた結果、全部で四七五トン出たミッドウエーの石綿廃棄物は二七五トンが基地外へ流出したもの、残り二百トンは中間処理をしない新しい処理方法が決まるまで基地内に保管されることになった。業者が個々に持ち出すケースも中止されたという。

新方法が果たして安全かという点には問題が残るが、ともあれこれまでタレ流しも同然だった有害廃棄物を世論の力でストップさせたということには、大いに注目してよいと思う。「発ガン物質の石綿がミッドウエーから出た」ことに米軍当局は非常に神経をとがらせ、最初にこれを報じた新聞社に、わざわざ抗議の電話をかけてよこしたという。

ミッドウエーの飛躍的グレードアップの陰から出たゴミたれ流し問題は、改修そのものはストップさせられなくても、“横須賀でやった”ことの意味をひとつ浮き上がらせたといえよう。

各地から

ナガサキ

地域で・生活の場で 兵器生産と対決



細川 正義(ピース・バス長崎)

百五十人でもちつき大会

もちをつく人、でき上がったもちを丸める人、ぜんざいを作る人、また、もっぱら食べる人……

昨年十二月十五日、「ピース・バス長崎」は、会員や家族など約百五十名が参加し、もちつき大会を開催した。参加者の半数は、子供とあって、とにかくにぎやかで、楽しい一日であった。

ミッドウエーの兵器生産を問題にする

「ピース・バス長崎」とは、昨年八月、ここ被爆地長崎で新たに結成した兵器生産反対を中心課題とする市民団体で、現在約二百名の会員によって運営している。

長崎の既成の平和運動は、八月の原水禁大会に象徴されるように「核」問題を中心にすすめられてきたといっても過言ではない。そして、これらの運動が今日まで果たしてきた役割は、それなりに大きかったし、今後も日本の、長崎の反戦・平和のたたかいの重要な柱であることに変わりはないと思う。しかし、「三菱の城下町」といわれる長崎で、その三菱重工が魚雷や艦船を作る。それも町の真中で。それに対して、一部の三菱の労働者以外は、殆ど問題にしてこなかった。

雷工場が建設された折、政党や労働組合、市民団体などから何ら問題にされなかったことに危機感を持った。と同時に、米ソ両核大国をはじめとする核保有国へ「反核」の声を届けるだけの運動に限界を感じた。そして、長崎に原爆が投下された原因も三菱兵器工場にあることを考える時、日常の生活の場で行なわれている兵器生産を問題にしていく必要を感じた。

労使一体で兵器生産に拍車

軍産複合は、他国の問題ではない。平和憲法を持つ日本でも着々と軍産産業が復活し、最近の「不況」のなか、益々兵器生産が企業の注目を集めつつある。そして、中曽根政権の軍拡路線に乗って、軍事産業は、政治・経済全般にわたってその影響力を強めつつある。三菱重工は、その頂点にたつ企業である。三菱重工の八五年度の兵器生産売り上げは全売り上げ高の一三パーセントを越え、防衛庁発注額の四分の一を占めている。(長崎三菱連帯支部長船分会発行の「三菱重工と兵器生産」より)

一方、ここで働く労働者は、一部を除き、「本音をいえば、もっともっと兵器を作りた

反核国際シンポジウム

人間の鎖は太平洋より大きい

1987 **21** (SUN)
●PM2:00→PM8:00
●参加費/1,000円

会場●全通会館9Fホール (池袋駅西口、新田橋通り、池袋駅西口3分 03(813)7029)



参加する海外ゲストは、グローバルな情報を
更なる分析しながら、自分の生きている地域での反核・
反核運動に参加している運動家たちです。「地理
的に考え、地域で行動しよう」という立場で国
際的な対話を深めるのに、またとない機会です。
開くだけに終わる国際会議にならないよう、
フロアでの会話の時間を増やします。

よびかけ

- アジア太平洋センター
- トマホークの記憶を許すな/全国運動
- 日本カトリック正義と平和協議会
- 日本キリスト教協議会・平和委員会
- 反核・パシフィック・センター東京
- 平和事務所
- 海の軍艦艦長を/太平洋運動(事務局:オノム)

連絡先 03(458)6095 トマホーク会社

協力

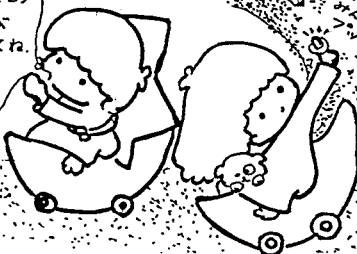


はいやだ

アクション・ウィーク期間中に
こんなこと やってませんか
①に関する 学習会の開催
②に関する 署名をまとめる
③新聞に 反対の投書
④中曾根ちゃんへの お手紙
⑤に関する 映画の上映会
などなど、皆さんの アイデアを
いろいろなことを やってみよう。

2月14日
18:00~

山手教会(渋谷)
内容は未定ですが
日程をあけておいてね
特にこの日は
バレンタインデー
だから...



987 2/9 10 11 12 13 14

アクション・ウィーク

会計報告 (86.9.25 ~ 12.10)

(収入)	(支出)
会費 602,500	事務所代 150,000 (10~12月分)
カンパ 54,000	電話代 29,518 (10~12月分)
雑収入 29,760	写真 18,440
	郵便代 108,160
	印刷代 117,180
	会場費 16,900
	雑費 9,140
	借入金返済 100,000
	翌年バウンス 136,922
計 ¥686,260	計 ¥686,260

(会計:水野)

会費納入をよろしく!
カンパも
待ってます!!



トビ
ボクも
反対99%

悪法!
国家秘密法



「国家秘密法」に反対する市民ネットワーク

連絡先:

東京都千代田区神田多町2-5 若葉亭

TEL: 254-4428

郵便振替: 東京9-145369